

中国語の朝鮮語翻訳における場面 情報の文字情報への転換

—その増加と省略について—

著 武 烈 満
平 貞
太 斐 呉

1. まえがき

本論文では、言語活動における文字情報と場面情報の特性、および中国語の朝鮮語翻訳における場面情報の文字情報への転換関係、すなわち翻訳における増加と省略について考察する。

2. 言語活動における文字情報と 場面情報の特性

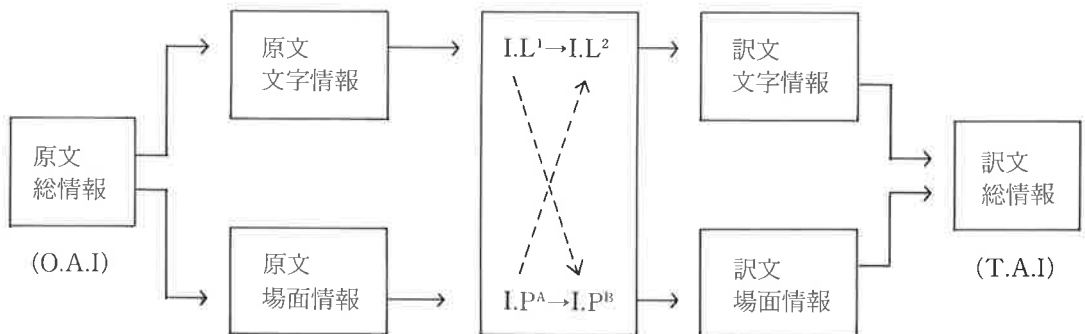
中国語を朝鮮語に翻訳したり、逆に朝鮮語を中国語に翻訳する場合、常に原文の言語形式を改め、原文にない言葉を訳文に新たに増加させたり、原文にある言葉を訳文では省略するなどの加工作業を施さざるをえない。これは言語形式の異なる中国語と朝鮮語の間の翻訳では、不可避なことであり、むしろ当然なことでもある。

それでは、原文にない文字表現を訳文で増加させたり、原文にあるものを訳文で省略する理由はどこから来るのであろうか。訳文の過程で、原文を増減すれば原文の意味から外れるのでは

ないか。筆者はこの問題について、情報論的な角度から分析し、解明しようと思う。

情報というのは、ある事実や現象を、言語・文字・記号などで表現したり、記述することにより得られ、発信者から受信者へ新しく伝達される内容である。このような内容は、それ自体を乗せる積載手段によって発信者から受信者に伝達されるのであり、ここでいう積載手段そのものが我々の話す言語であり、新しく伝達される内容が情報になるのである。したがって、翻訳というのは、互いに異なる情報積載手段の間での情報交換として、原文に与えられた情報を訳文の言語に移す言語活動である、と言える。

この場合の原文に与えられた情報というのは、単なる文字的信息だけではなく、これに入っている場面情報までも含む。また、交換というのは、単に原文の文字情報が訳文の文字情報へ転換する平面的な現象ではなく、原文の文字情報と場面情報が、訳文で交差的に転換する立体的現象である。この翻訳過程を図式化すると次のようになる。



〈翻訳過程表示図〉

注：(1)

〈翻訳過程表示図〉中における“O, A, I”とは, the Original All Informations (原文総情報)を, “T, A, I”とは, the Translated All Informations (訳文総情報)をそれぞれ意味する。

また, “I, L”とは, the Informations on a Letter (文字情報)を, “I, P”とは, the Informations in a Place (場面情報)をそれぞれ意味する。

また, $I, L^1 \rightarrow I, L^2$ は原文文字情報から同じ内容への直接情報を, $I, P^A \rightarrow I, P^B$ は原文の場面情報から同じ内容への直接情報をそれぞれ意味する。

ここで原文の総情報(O, A, I)と訳文の総情報(T, A, I)は対等であり, 文字情報と場面情報の合一は, 総情報と一致する。

それでは, ここで言う文字情報と場面情報とはどのようなものであろうか。周知のごとく, 言語は, コミュニケーションにおける仲介的役割を果すのであって, 話し手はその言語をもって自己の思想, 感情を表現し, 聞き手は発話された内容を既知の情報と変調させ, 新しい情報を理解し, 受容するのである。この過程で, 話し手の意味することが, 言語形式に表れる文字そのままを表示する場合, 聞き手はその通りの文字の意味を理解することになるが, 話し手により, 伝達される情報とその言語形式に表れた文字の情報と一致する時, われわれは, このような情報を文字情報と称する。ここで注意すべきことは, 文字情報は言語形式に表れる文章そのままの意味であることである。われわれは, コミュニケーション過程でやりとりされる言語が, たびたび文字の意味とは, 非常に異なる意味として伝達される場合を見ることができる。例えば, 成句, 格言や各種の比喩法(隠喩, 換喩, 提喩)などは, その文字的な意味そのものとは違って, 文章や言語形式に含まれている言外の意味があるものである。このような情報は, それが文字として表現されたと言っても, その意味が文字の解釈とは異なる間接的な表現であるので, このような場合の情報は文字情報の範囲には入れなかった。

情報の伝達においては, 上述した言語文字による文字情報だけではなく, その情報が伝達される時の言語的場面がある。言語的場面の構成要素には, 話し手と聞き手があり, それらを囲む時空間がある。同時に話し手と聞き手の話の内容の流れがあり, その話により作られた感情, 情緒の雰囲気もある。このように, 言語や文字以外の文脈や言語環境などに含まれた情報と, 成句, 格言, 比喩のような間接表現による情報をここではすべて場面情報と称することにする。

場面情報には, 直接の文字的意思そのままに伝達される情報を除くすべての情報, つまり言語環境に含まれた情報がある, 文脈の中に含まれた情報は, 背景となる知識, 間接的表現により伝達される情報と各種の非言語的動作情報などが網羅される。したがって, 文字に表れなかったとしても, そこに情報がないのではなく, 場面情報と文字情報は, 互いに言語形式の転換過程で, 交互に転換されたりもする。翻訳における増加と省略は, このような文字情報と場面情報の相互転換により表れる文字的現象である。例文をあげると,

(1) “好, 我先走罷, 免得碰見別人。”她回過頭对他笑了笑, 便走了。『家』

〈朝訳〉

(네, 알겠어요. 그럼 제가 먼저 내려가겠어요. 다른 사람들에게 들리지않게 말이에요. 소년은 각해를 돌아보며 섣목 웃고는 내려갔다.)

この例文で「好」は, 形容詞としてのいろいろな語彙的意味を持っているが, どう考えても「네, 알겠어요」(はい, 分かりました)とは, 何ら意味的関連性がない。訳文が, このようになるのはその文脈から把握される場面情報から表れる意味によるのである。この例文の前後場面をみると, 封建倫理道德の叛逆者であり, 新生事物の信奉者である覚慧という人物が, まず家庭に対する反抗から家出する。これにより家門では大きな騒動が起こり, 覚慧を探して家中がさわがしくなる。その時, 覚慧は自分に会いにきた女子同窓生を責めながら「이러이러하게

하라」(かくかくしかじかにせよ)と話す。その時の返事として「好」を使った。この時の「好」は覚慧の話を理解し、彼(覚慧)に対する同意の態度の標示である。この時の「好」は、その場面に含まれた情報の意味を表していると言える。

次は、原文の場面情報が訳文の文字情報に転換する過程を考察したものである。

3. 場面情報の文字情報への転換

[3-1] 原文の文字情報だけでは、訳文での意味を明確に表現しえない時

(2) 至於革命党，有的說是便在這一夜進了城，
個個白盜白甲，穿着崇禎皇帝的素。『阿Q正伝』

この例文中における「這一夜進了城」は、主語が文字として表れず、「個個白盜白甲」は、判断句として、「個個是白盜，個個是白甲」という意味であり、「崇禎皇帝的素」というのは、この文字からして「崇禎皇帝の喪服」という意味である。形態が発達していない中国語では、このような表現が許されるが、これを朝鮮語に訳した場合は、その意味が正確に通じない。そこで、次のように朝鮮語訳してみる。

〈朝訳〉

(어떤 사람들은 혁명당에 대하여 말하기를 그날밤 혁명당이 성안에 들어갔는데 모두 흰 투구에 흰 갑옷들이었다. 승정황제의 상복을 입는 것이라고 하였다.)

このように訳すると、まず、その「성안에들어간 대상」(城の中に入った対象)が誰なのか知るすべがなく、「모두 흰 투구에 흰 갑옷들이었다」(皆、白い鉄帽に白い鎧であった)は、朝鮮語としては、ふさわしくない。また、「승정황제의 상복을 입는다」(崇禎皇帝の喪服を着る)と訳するのは不正確である。このような翻訳は、原文の文字の意味をそのまま訳したとは言え、文章の実際の意味を適格に表現してはいない。

〈朝訳〉

(어떤 사람들은 혁명당에 대하여 말하기

를 그날밤 혁명당이 성안에 쳐들어갔는데 모두 흰 투구에 흰 갑옷을 입었다라는 것이다. 그것은 승정황제를 위해 상복을 입는 것이라고들 하였다.)

となるべきである。ここで下に点を施した所は原文に文字的に表れていないけれども、その文脈の中に隠されている場面情報から察することができる部分である。つまり文字情報と場面情報の総合的な伝達により、文脈を的確に理解することができるのである。この時の場面情報により、訳文の文字に新しく増加された部分が、文字情報に転換したのである。翻訳でのこのような特徴が、増加と省略に大きな働きをする。次の例をみよう。

(3) 如果没有“言者無罪”一条，並且是真的，不是假的，就不可能收到“知無不言，言無不尽”的效果。『毛主席語錄』

この原文の「並且是真的，不是假的」は、「並且是真的没有“言者無罪”一条，不是假的没有“言者無罪”一条」の意味として、中国語では、その文字的なことを省略し、場面に任せることにより、文章としての意味を伝達させながらも、文章構造も簡潔にしている。この原文を直訳すると――

〈朝訳〉

(만일 “말한 사람은 죄가 없다”는 조목이 없다면 또한 진짜이며 거짓이 아니라면 “아는 것은 다 말하고 할 말은 끝까지 하는” 효과를 거둘수 없다.)

となるであろう。この場合「진짜이며 거짓이 아니라면」(本当であって、嘘ではないとしたら)が、いったい何を指すのかが分かりにくいし、「“言者無罪”一条」との関係も曖昧になる。だから訳文では、「並且是真的，不是假的」(本当であって、嘘でないとしたら)の文字化されていない場面情報を文字化しなければならぬのである。朝鮮語と中国語の区別がこのような場面で、比較的あざやかに表現される。それは表意文字であり、音節文字である中国語の孤立性と表音文字であり、音節文字である朝鮮語の形態的発達と密接な関係がある。訳文は次のようになろう。

〈朝訳〉

(말한 “사람은 죄가 없다”는 원칙을 실시하지 않고서는 또한 이를 거짓으로가 아니라 진정으로 실시하지 않고서는 아는 것은 다 말하고 할 말은 끝까지 하는 효과를 거둘 수 없다.)

- (4) 八月,我却想尽了办法才得到允许去北京看您,那時,您和病中的媽媽被軟禁在卍字廊的住所里。

〈朝訳〉

(8월에 우리는 모든 방법을 다 하여서 야 북경에 가서 卍字廊 주택에 入金되어 계시는 아버지와 병환에 계시는 어머니를 만나 볼 기회를 가지게 되었어요.)

ここでも原文の「病中の媽媽」を、「병환에 계시는 어머니」(病に臥しておられる母)と翻訳することにより、原文にはない「계시는」(おられる)を付け加えた。これは、待遇法上、朝鮮語の絶対敬語の特徴によって、病気中の母に、「병환에 계시는」(病氣中の)〈病気でいらっしゃる〉と訳するのは、原文の場面状況から少しもおかしくはないからである。

- (5) 孔子說：“吾十有五而志於学，三十而立，四十而不惑，五十而知天命，六十而耳順，七十而從心所欲，不逾矩。”

〈朝訳〉

(공자께서 말씀하시길, “나는 나이 15세에 학문에 뜻을 두었고, 30세에 학문의 기초를 확립했으며, 40세가 되어서는 판단에 혼란을 일으키지 않았고, 50세에는 천명을 깨달았고, 60세가 되어서는 귀로 들으면 그 뜻을 알았고, 70세가 되어서는 마음이 하고자 하는 대로 해도 법도를 벗어나는 일이 없었다”)

上の例文からみると、中国語は、語の構成上、形態素が発達しなかった表意文字の上に、この例文が、また、古文であって一文字の含んでいる意味の幅がとて広く、場面に対する依存性が高い。したがって、解釈の幅が広がる。

そこで原文の意味を正確に表現できるように、場面に含まれている意味を訳文で形態化し、

単音節の意味を具体化させて解釈しなければならない。

- [3-2] 原文の文字情報だけでは、訳文で誤解の生じる場合

- (6) 不破不立。破，就是批判，就是革命。『毛主席語録』

ここでの「破」と「立」は簡単に「파괴하다」(破壊する)、「세우다, 건설하다」(立てる, 建てる)の意味だけに使われたのではなく、ここでは「무엇을 파괴하고」(何を破壊し)、「무엇을 세우는가」(何を建てているのか)という補語をつけ加えて使われたのである。ただ、その補語が上下文脈の中にかくされて、場面情報として使われただけである。この時の中国語での隠された意味を訳文で文字化しないと誤解が生じるので、それを文字情報として転換させなければならない。

〈朝訳〉

(남은 것은 파괴하지 않고서는 새 것을 건설할 수 없다. 파괴란 곧 비판이며 혁명이다.)

とすべきである。この時の「남은 것」(古いもの)と「새 것」(新しいもの)が文字情報として転換したのである。

- (7) 全劇只有兩個角色，男角是牧童，女角是鄉村小姑娘。『毛主席語録』

中文の「男角是牧童，女角是鄉村小姑娘」は、二つの判断句として、「男角」と「女角」は、判断の対象であり、「牧童」と「鄉村小姑娘」は、その対象の属性を表している。この判断句は、事実上、「男角扮演牧童，女角扮演鄉村小姑娘」の間接判断から生じたのであり、言語環境に依存の高い中国語では、上述した間接判断の関係を「男角＝牧童」「女角＝鄉村小姑娘」の関係として表わしたのである。形態が発達した朝鮮語では、このような曖昧な間接判断が容認されにくい。どこまでも原文の深層構造を表層構造に移し、「남배우가 목동역을 하고 녀배우가

농촌의 소녀역을 한다」(男優が牧童の役をし、女優が農村の少女役をする)とならなければならない。原文の場面情報を文字情報に転換させたわけである。

- (8) 那時我的父親還在世，家景也好，我正是一個少爺。『魯迅小說選』

この例文でも「我正是一個少爺」は、一つの判断句として「我」と「少爺」は対等の関係にあり、「나는 도련님이다」(私は坊っちゃんだ)のようになる。しかし、この文章の前後関係から判断すると、朝鮮語としては、文章の続きがよくない。即ち、

<朝訳>

(그때 나의 아버지도 생전이었고 집 형편도 괜찮아 나도 도련님이었다)

のようになる。この文章は原因と結果が噛み合わないのである。「아버지가 생전이었고 집 형편도 괜찮은…」(父親の生前であり、家の具合もまあまあで…)というのが「내가 도련님이었다」(私が坊っちゃんであった)というのとでは因果関係が成立しない。どうしても「나는 도련님과 같은 생활을 하였다」(私は坊っちゃんのような暮らしをした)とするのが妥当である。

- [3-3] 文芸作品における場面情報の象徴副詞化した文字情報への転換

文芸作品の言語は芸術的な言語として、人民大衆の口頭語を基礎にし、作家により加工され、また洗練されて、形象性の豊かな、感情的色彩の濃い言語となる。このような言語の特徴に基づき、訳文では原文の場面と情景に合わせ適当に象徴詞を添加させることによって、その表現性を高めることもある。

- (9) 忽然吳老太爺的手動了一下，喉間一聲響，就象是痰塊的白沫從嘴里冒出來。『子夜』

この例文は茅盾の『子夜』(黎明を前にして)で、呉なる姓のお爺さんが上海居住の子の家(呉蓀甫)に移って来たが、農村では見ることで

きない低俗で絢爛な世情に気を失ない、泡を吐きながら、亡くなる時の表現である。この場面での「手動了一下」「喉間一聲響」は、亡くなる時の手がふるえ、喉から痰が吐きだされる場面で、朝鮮語では「가르릉」(うごめく)と「가르릉」(ゴロゴロする)という象徴副詞を用いることによって、その場面を形象化することができる。この時、「꿈틀」(うごめくさま。びくり)や「가르릉」が付け加えられることによって原文の意味をそこなっているのではなく、むしろ、その表現性を高めていると言える。

<朝訳>

(문득 령감의 손이 꿈틀하고 목구멍에서 가르릉 소리가 나더니 가래 같은 흰 거품을 내뿜었다.)

- (10) 甚至一只花瓶里，還插着几枝尚未開放的臘梅。『東方欲曉』

<朝訳>

(지이 꽃병에는 망울이 봉긋봉긋한 겨울 매화가 몇 가지가 꽃혀 있기까지 하였다.)
この例文は『東方欲曉』(1集)の一ヶ所で、「臘梅」がつぼみを結び、すぐ咲くようになる場面の描写である。じきに咲くだろう蕾を「망울이 봉긋봉긋한 겨울매화」(つぼみがこんもりもり上がった冬の梅)と訳したのは、その場面にふさわしい、形象性を生かしたうまい翻訳だと思う。

- (11) 祖父還有一個姨太太。這個女人雖然常常濃妝艷抹，一身香氣，可是並沒有有一點愛嬌。『家』

<朝訳>

(할아버지에게는 첩이 하나 있었는데 그는 지독하게 화장을 하여 온 몸에서 향기가 물씬물씬 났지만 애교라고는 조금도 없는 녀인이었다.)

- (12) “你猜我笑什麼？”柳明緊緊抱住苗虹的脖頸，又笑了。『東方欲曉』

<朝訳>

(“네, 맞춰보렴, 왜 웃는지?” 류명은 묘홍의 목덜미를 꼭 껴안고 또 싱글싱글 웃는 것이었다.)

- (13) 這麼叫着，張素素就放開了林佩珊，退後一步落在—張搖椅里，把手掩住臉孔。『子夜』
〈朝訳〉

(이렇게 부르짖는 장소소는 림페산을 놓아주고 뒤로 물러나더니 흔들의자에 털썩 주저앉아 손으로 얼굴을 가리웠다.)

- (14) 她跳下車來，娉婷地邁着碎步，直奔寺里去。『子夜』

〈朝訳〉

(차에서 내리자 그 녀인은 여여뿐 몸매를 한들거리며 딸각딸각 절간문으로 들어갔다.)

以上のように、訳文ではその前後文脈から把握した場面情報を文字情報に転換させて、原文にない象徴副詞を付け加えている。この時、訳文で象徴副詞を付け加えたとはいえ、原文の意味するところを損ったり、原文そのものを尊重しないというのではない。象徴副詞が特に発達した朝鮮語では、その独特の秀れた表現手法により、中国語の表現を朝鮮語の特徴を生かして的確に表現しえるのである。

[3-4] 文芸作品での形象性を生かすための場面情報の文字情報への転換。

朝鮮語では、文芸作品での形象性を生かし、表現的な効果を高めるため、原文の言語環境から推測される形象語を適当に補充し、表現内容を豊かにすることができる。

- (15) 梅把海臣的臉靠近自己的面頰，又在他的頰上吻了几下，接連說着“真乖”才放他下來，把他送到瑞玉的面前說。『家』

〈朝訳〉

(매분이는 해신의 얼굴을 자기의 볼에 대고 비비면서 여러번 입을 맞추었다.“정말 기특해 요거—막 죽여주네—” 그는 해신이를 서각에게 돌려주며 찬사를 아끼지 않았다.)

これは巴金の『家』で、封建倫理道德の犠牲者である梅芬が愛している覚新と結ばれず、悩みと孤独の中で苦しんだ後、病気で倒れた時の

話である。ある日、梅芬が貧弱な体で散歩しているうちに、野原でかわいく走りまわっている覚新の息子に会ってから、ふたたび、覚新に対する恋慕の情となつかしさが想い出される。彼女は、がまんしきれず、海臣（覚新の息子）の顔に自分の頬を擦り寄せながらキスをする。この時、「接連說着，真乖」を「정말 기특하구나」

(本当に賢いね)と表現すれば、覚新に対する梅芬の愛情が、うまく表現されていないことになる。「정말 기특해 요거—막 죽여주네」(本当に賢いね、何てこんなにかわいい人だろう)と訳した方がよい。だからとて、原文の意味するところから離れてはいない。それは原文の「臉靠近自己的面頰」，「又在他的頰上吻了几下」から「接連說着」，「真乖」を「정말 기특해 요거—막 죽여주네」(実に神妙だ。これは本当にいかすよ)のように表現することができるからである。原文の意味表現上、この場面状況から覚新に対する愛情を、上述のような行動として表現するのは、簡単に理解できるし、無理なことではないのである。また、「찬사를 아끼지 않았다」(讃辞を惜しまなかった)も海臣をかわいがる表現を先にしたので、文字的にそのような表現もさしつかえないのである。

- (16) “怎麼只有兩杯？我明明叫你倒三杯！”他依旧高声問。鳴鳳快要走到他底面前，聽見他的大声問話，似乎吃了一驚手微微顫抖，把杯里的茶潑了一点出來。『家』

〈朝訳〉

(“어째 두잔뿐이야? 내가 석잔이라고 한 말은 귀등으로 들었어?” 그는 여전히 큰 소리를 쳤다. 각혜 앞까지 걸여온 명봉이는 그가 큰 소리를 치는 바람에 흠칫 놀라 손을 약간 떨었다. 차잔에 담긴 차물이 찰랑 쏟아졌다.)

この例文も巴金の『家』からの引用である。召使いの鳴鳳がお茶の水を汲んでくる所へ、お坊っちゃんの大声に驚いて、お茶の水をこぼす場面である。この時、原文の、「把杯里的茶潑了一点出来」を「차잔에 담긴 차물이 찰랑 쏟아졌다」(茶碗に注がれた茶水がちょろりとこぼれた)と訳しているが、「찰랑」(広く浅いとこ

ろの水がゆれるさま)は言語場面から推測することができる表現である。そして原文の「我明明叫你倒三杯」を「내가 석잔이라고 한 말은 귀등으로 들었어?」(俺が三杯だと言ったのを小耳で聞いたのかい?), 「吃了一驚」を「흥짓 놀랐다」(ぎくっとおどろいた)と形象性を生かして翻訳したのも, 上手な手法だと思われる。

(17) 一句話說到高雍雅的心坎上, 怒氣立刻消失了。『東方欲曉』

<朝訳>

(그 한마디의 말에 해빛을 받는 눈어름처럼 고옹아의 성났던 마음은 대번 풀리었다.)

(18) 高忠在這個公館里服務的時間, 雖然只有三四年, 但是已知道了主子的脾氣。主子發怒的時刻完全不講理, 做仆人的要保持飯碗, 除了服從而外, 沒有別的弁法。『家』

<朝訳>

(고충은 이 집에 온지 서너해 밖에 되지 않지만 주인의 고약한 성미를 잘 알고 있었다. 그는 일단 성만 나면 사리를 따지지 않고 벽도 문이라고 내미는 사람이었다. 그런만큼 먹고 살기 위해서는 울면서 겨자먹기로 수격수격 복종하는 수밖에 별 도리가 없었다.)

上の二つの例文(17, 18)は, その文脈の流れから, その場面に含まれた情報によって, 「怒氣立刻消失了」を「해빛을 받는 눈어름처럼 풀리었다」(陽射しを浴びた雪氷のように解けた), 「完全不講理」, 「…除了…外, 沒有別的弁法」をそれぞれ「벽도 문이라고 내미는」(壁も戸だと言ひ張る), 「울면서 겨자먹기로」(いやいやながら)などのように翻訳することができる。

ここで付け加えておきたいのは, 中国語と朝鮮語の翻訳において, 場面によっては一つの文字や一つの品詞がその語彙的, または文字的な意味とは, かけはなれてとんでもない単語や単語結合に入れ替えられる場合があることである。これは, その文字や語彙に対する直訳ではなくて, その場面から生じる情報に留意するべ

きであることを意味する。

例を挙げると

(19) 她如今立在他們的面前: 依旧是苗条的身材, 依旧是一頭漆黒的濃髻, 依旧是一双水汪汪的眼睛; 只是額頭上的皺紋深了些, 腦後的弁子又改成了髻髻, 而且臉上只淡淡地傳了一点白粉。『家』

<朝訳>

(그는 지금 이전이나 다름없이 호리호리한 몸매로, 이전이나 다름없이 그 술 많은 검은 머리며 그 어글어글한 두 눈을 반짝이며 그들 앞에 서 있었다. 달라진 것이라면 이마의 주름살이 좀더 깊어진 것이었고 땡아내렸던 머리채가 쪽저지고 약간 화장을 한 것 뿐이었다.)

これも巴金の『家』からの引用で, 梅芬の心身の変化過程を描写した場面である。「只是」を中心として, その前のところは梅芬の, 「호리호리한 몸매」(すんなりした体つき), 「술 많은 검은 머리」(黒々とした髪), 「어글어글한 두 눈을 반짝이며」(ぎょろぎょろした両眼を輝やかせながら)などのように, 元の美しい姿を叙述して, その後文では「이마의 주름살이 좀더 깊어지고」, 「땡아 내렸던 머리채가 쪽저지고」, 「약간 화장을 한 것 뿐」という変模に関する叙述である。また前後の文章に, 「只是」という対立的關係の接続詞を使っているが, この時の, 「只是」というのは前後文章の人物描写の「相異点」についての表現である。それで語彙的に「只是」と「달라진 것이라면」とは意味的な関連性はないが, 文脈の流れから「달라진 것이라면」(異なったことと言えば)の意味表現が添加, 補充されたのである。

(20) “什麼? 你敢悔婚! 你敢違抗父命!” 老人他條地站起来, 嚴勵地說。『第二次握手』

<朝訳>

(“뫼이 어찌고 어찌? 네가 감히 파혼을 해?” 언감생님 제 애비의 의사를 이겨?)

(21) “大少爺, 象你這樣好心腸, 梅芬在九泉也會感激你” 錢太太誠忌地說“感激”兩個字象

一把針乱刺着党新的心。他覺得有滿肚子的話，却說不出來。『家』

〈朝訳〉

(“자네의 그 고마운 마음을 매분이는 저승에 가서두 잊지 않을 걸세!” 진씨 마님의 말은 진심에서 울어나왔다. “잊지 않을 걸세” 이 말은 바늘처럼 자신의 마음을 아프게 찔렀다. 그의 가슴속에는 할말이 많았으나 입 밖에 나오지 않았다.)

上の二つの例文(20, 21)も、下に点を施した箇所はその原文と訳文の語彙的対応関係が無視され、まったく違う対応関係になっている。先ず、先の例文で「什麼」はその語彙的意味が「무엇인가」(何か)の意味であるが、その言語環境は話者の気に食わないことが起り、話者が激怒した場面である。この時の「뭣이 어찌고 어찌」(何がどうしてどうだつて)は、その激怒した場面で付け加えられた意味が語彙化したのである。二番目の例文も中国語からは、「感激」と「兩個字」とはその結語関係がよく似合うが、朝鮮語での「잊지 않을 걸세」と「두 글자」(二文字)とは結合されない。このような意味から、その翻訳が語彙的、または文法的な側面のみを考える場合、原文の意味が的確に表現できずおかしくなることもあるのである。この時、「感激」と「兩個字」とは、それに対応する朝鮮語の言語的単位に換えられ、訳文では、その朝鮮語の言語単位にふさわしい結合関係にしなければならない。この時の「잊지 않을 걸세」(忘れない筈さ)と「이 말은」(このことばは)とは、その対応する語彙的意味の訳でなく、その環境・場面から把握される内容である。つまり、場面情報の文字情報への転換を意味するのである。

[3-5] 一つの規定語が、二つの中心語を同時に修飾する場合(D(A1+A2)→DA1+DA2)。

中国語では叙述の簡潔性のため、「D的A1或A2」のように、一つの規定語のDが二つの中心語であるA1とA2を同時に修飾する場合があるが、この時の後の中心語のA2は、実は規

定語のDを省略しているのである。朝鮮語では、DがA1のみを修飾するのか、A2までも修飾するのか、まぎらわしい場合があるので、その省略されたDを、ふたたび文字化させ「D的A1或D的A2」として転換して翻訳するのである。例えば、

(22) 国營的工業或商業，都已經開始發展。它們的前途是不可限量的。

ここで「国營的工業或商業」は、一つの共通修飾語の「国營」が二つの中心語「工業」と「商業」を修飾しているが、中国語では、その叙述の簡潔性のため、修飾語の一つだけ使っている。この場合、朝鮮語でも同じ方法で訳するとすれば、「国營」が「工業」だけを修飾するように誤解されるため、「国營」を「工業」と「商業」とにそれぞれ分けなければならない。つまり、中国語の場面情報に依託された「国營的商業」の意味を、訳文では「国營商業」のように文字情報に転換させなければならない。

〈朝訳〉

(국영 공업이나 국영 상업은 이미 발전되기 시작하였으며 그 전도는 무한히 양양하다.)

とすべきである。

* D: 規定語。

A: 被規定語または中心語。

D(A1+A2)→DA1+DA2: は、一つの規定語が、同時に二つの中心語にかかる場合、訳文では、その規定語が中心語をそれぞれ修飾することを意味する。

(23) 他們不知道中国在政治上，經濟上完成民主革命，較之俄国要困難得多，需要更多的時間和努力。『毛澤東選集』

〈朝訳〉

(그들이 중국에서 정치경제적으로 민주혁명을 완수하는 데는 로씨야 보다 많은 곤난이 있고 더 오랜 시일과 더 많은 노력이 필요하다는 것을 알지 못하고 있다.)

この例文で規定語の「更多」は、同時に「時間」と「努力」を修飾しているが、その意味は

「更多的時間」と「更多的努力」となるものである。訳文では誤解を避けるために、中心語のそれぞれに、その修飾語を付け加えなければならない。また、訳では「시일」(時間)と「노력」(努力)がそれぞれ「오랜」(久しい)と「많은」(多くの)という異なる単語の修飾を受けているが、これらもそれぞれの中心語に規定語を付け加える原因の一つになるのである。

(24) 的確，正是要消滅資產者的個性，獨立性和自由。

〈朝訳〉

(확실히 자산자의 개성, 자산자의 독자성, 자산자의 자유를 소멸하려 하는 것이다.)

下線部分「—」は、規定語または非中心語を、「~~~~」は被規定語または中心語を表す。後述語の場合も同じである。

この例文でも、原文の共通規定語であるDが中心語のA1, A2, A3を修飾しているが、訳文ではそれをDA1+DA2+DA3のように、中心語のそれぞれに修飾語を付け加えている。したがって、一つの規定語がいくつかの中心語を修飾する時の訳文は、D(A1+A2+A3)→DA1+DA2+DA3のような形式を取ることができる。

[3-6] 二つの規定語が一つの中心語を修飾する場合 ((D1+D2)→D1A+D2A)

中国語では、場合によっては二つの規定語が一つの中心語を修飾((D1+D2)A)する時があるが、これをわれわれは省略として、つまり文字情報の場面情報への転換としてみなしているが、朝鮮語では誤解を避けるために、規定語のそれぞれに中心語を付けることにより、明確に表現することができるのである。この時生じる誤解とは、主に、(D1+D2)AからD2とAとの間が、一つの単語の結合のような曖昧な関係になる場合を念頭においた時のことを言う。

(25) 從廣東出發的資產階級民主革命，到半路被買弁豪紳階級篡奪了領導權，立即轉向反革命

路上。((D1+D2)A)

〈朝訳〉

(광둥으로부터 시작된 자산계급민주혁명은 중도에 매판계급과 토호렬신 계급에게 령도권을 빼앗기어 즉시로 반혁명의 길로 돌아서게 되었다.)

この例文から見ると、原文の「買弁」「豪紳」は、二つとも中心語「階級」を共通的に持っているが、訳文で、もし「매판 토호렬신계급」(買弁, 土豪出身階級)にしたとすれば、一つの対象を命名する階級のごとく誤解しがちになる。これでは原文の意味するところからずれてくる。したがって、訳文では「買弁」と「豪紳」とに、それぞれ「階級」を付け加え、「매판계급」(買弁階級)と「토호계급」(土豪階級)にすべきである。

(26) 第一部分是有錢剩米的，即用其体力或腦力勞働所得，除自給外，每年有余剩。(D1+D2)A)

〈朝訳〉

(첫째부분은 돈과 량식에 여유가 있는 사람들 즉 육체로동 혹은 정신로동에 의한 소득으로 자급하고도 매년 여유가 있는 사람들이다.)

(27) 工農業品的交換，我們是採取縮小剪刀差，等價交換或者近乎等價交換的政策。

〈朝訳〉

(공업제품과 농산물의 교환에 있어서 우리는 협상가격을 축소하며 등가교환을 하거나 근사한 등가교환을 하는 정책을 취하고 있다.)

以上の例文(26, 27)からも、原文の(D1+D2)A形式をD1A+D2Aの形式に、規定語ごとに(または規定語に関係のある)中心語を付け加えなければならない。もし、互いに違う規定語が、一つの中心語を同時に修飾する時(D1A+D2A)、その中心語がどちらか一つの規定語のみと結語するような誤解を避けられるなら、訳文ではその規定語を並列させておいて、一つの規定語を使うこともできる。それなら、文章も簡潔で経済的になる。

ここで問題になるのは、(D 1 + D 2)とAの連結である。この連結でD 2とAが一つの単語結合のような誤解を与えず、A 2がD 1, D 2と同じ資格で結合されるよう処理する場合には、完全に一つを省略することができる。

例えば、

(28) 這個“材料”具有極大的尖銳性和鮮明性，十分引人注意。

ここで「尖銳」と「鮮明」は、それぞれ「性」を修飾する。もしこれを「첨예하고 선명한 특징」(尖銳で鮮明な特徴)と翻訳すれば、「특징」(特徴)が「선명한」(鮮明な)とのみ結合されるのではなく、「첨예하고 선명한」(尖銳で鮮明な)と共通に結合されるということを理解するのに影響を及ぼさない。したがってこの場合には「性」一つを省略することができる。

〈朝訳〉

(이 “재료”는 극히 첨예하고 선명한 특징을 가지고 있어 자못 사람들의 주목을 끈다.)

との方がよい。

このように (D 1 + D 2) Aで、結合関係に混同を起さない状況下では、一つに統合して使うこともできる。

(29) 当然，是不完全的，有欠点的，是資產階級性的，但它帶有革命性，民主性。

〈朝訳〉

(물론 그것은 완전하지 못하고 결함이 있으며 자산계급적 성질을 띤 것이다. 그러나 그것은 혁명적 민주적 성질을 띠고 있었다.)

上のように訳すれば、簡潔であり、排比句としての韻律にも合い、文体論的な表現効果も高められる。

[3-7] 並列されている二つの述語が一つの共通の補語を持つ時

(30) 對於日本兵，不是侮辱自尊心，而是了解和順導他們的這種自尊心，從寬待俘虜的方法，

引導他們了解日本統治者之反人民的侵略主義。『毛沢東選集』

〈朝訳〉

(일본 병사에 대하여 그들의 자존심을 모욕할것이 아니라 그들의 그러한 자존심을 리해하고 그것을 옳게 이끌어 가며 포로를 관대하게 취급하는 방법으로써 그들에게 일본통치자들의 반인민적 침략주의를 리해시키는 것이다.)

この原文を見ると、「了解和順導」は共通の補語である「他們的這種自尊心」を持つが、これら共通の補語は、その述語との関係で完全に一致するのではない。まず「了解」は、補語の「他們的這種自尊心」を持ち、訳文で「그들의 그러한 자존심을 리해하고」(彼らのそんな自尊心を理解して)となるが、「順導」まで入れて「그들의 자존심을 리해하고 이끌어 가며」(彼らの自尊心を理解して導いて行きながら)とは訳されないのである。これは「자존심」(自尊心)を「옳게」(正しく)、「이끌어 가야」(導いて行ってこそ)としたいところであるが、原文のように、一つの共通の補語を使うと、それを適確に表わすことができないからである。このような状況下では、その場面に含まれている情報を文字情報に転換させて、述語ごとにそれにふさわしい補語を付け加えるべきである。

(31) 在複雜的事物的發展過程中，有許多的矛盾存在，其中必有一種是主要的矛盾，由於他們的存在和發展，規定或影響着其他矛盾的存在和發展…。

〈朝訳〉

(복잡한 사물의 발전과정에는 많은 모순이 있는데 그중 한가지는 반드시 주요한 모순이며 그것의 존재와 발전은 기타 모순의 존재와 발전을 규정하거나 또한 그것에 영향을 주기에……)

ここでの「規定」は他動詞として、訳文でも「그것의 존재와 발전은」(その存在と発展は)のように直接補語を持つことができるが、「影響」は自動詞として、例文のように直接補語を持つことができない。このような場合、訳文では一つの直接補語を、並列されている二つ

の述語の共通補語としてみなすことができないので、それぞれの述語ごとに補語を付け加えるべきである。

- (32) 假如我們對這些問題注意了，解決了，滿足了群眾的需要，我們就成了群眾生活的組織者，群眾就會真正圍繞在我們的周圍，熱烈地擁護我們。

〈朝訳〉

(가령 이런 문제들에 주의를 돌려 그것을 해결하고 군중의 요구에 만족을 주다면 우리는 진정으로 군중생활의 조직자로 될 것이며 군중이 우리의 주위에 뭉쳐 우리를 련렬히 옹호하게 될 것이다.)

この例文では、複合述語の「解決了，滿足了」が共通の補語である「群眾的需要」を持っているが、訳文ではそれが変化して「… 그것을 해결하고」(…それを解決して)、「군중의 생활에 만족을 주다」(群眾の生活に満足を与える)のように、述語ごとに、それに見合う直接補語と間接補語を付加したわけである。このように中国語と朝鮮語とはその対応過程において、品詞の性格が変化することがあるので、それに相応する変化を語の表現で与えるべきである。

- [3-8] 訳文での表現的效果を高めるために韻を合わせたり、適当な単語を付け加える場合

中・朝翻訳では訳文の韻律を合わせたり、その修辭学的な効果をあげるため、原文から推測される場面情報を、訳文で文字情報に轉換させることもある。

- (33) 別了，司徒雷登。『毛沢東選集』

〈朝訳〉

(잘 가라 스트워트어！)

これは毛沢東主席が全国解放の時、米国の大使のストチュワートの退却に際して書いた文章である。この文章で毛沢東主席は当時、一方では平和を訴えながら、他方では蔣介石の政府をそそのかして内戦を起こしたアメリカ政府の代弁者であるストチュワートの惨敗相を諷刺し、皮肉

っている。したがって、この文章は題目から政治性の色彩が濃厚である。ここで「잘」は、先ず諷刺と皮肉の意味を持ち、このように使われることにより韻律が合って、読みやすいし表現的效果も高まる。もし、これを「가라 스트워트어！」(行きたまえ，ストチュワートよ！)と訳すれば、音韻も合わなくなり、表現効果に影響を与える。文頭に副詞「잘」を入れることにより、前後の律動が合い、調和することで表現効果をも高めることができる。この時、この言語環境を見ると、ストチュワートに対する諷刺と皮肉は完全に可能になるのである。

- (34) 去罷，野草，連着我的題辭！『野草』

〈朝訳〉

(잘 가거라 들풀이여 나의 머리글과 더불어！)

これは魯迅の雜文『野草』のはしがきの結束語で、訳文ではその音韻を合わせるために、「잘」を付け加えた。これを「가거라 야초여 나의 제사와 함께！」(行きたまえ野草よ。我が題辭と共に！)と訳すれば、その手法上、単語の選択上、表現効果がだいぶ落ちることになる。

- (35) 黎明，軍号声冲破山野的寂靜，駐守在砢山的部隊集合上操。『沸騰的群山』

〈朝訳〉

(동트는 새벽 나팔소리가 산야의 정적을 깨뜨렸다. 광산에 주둔한 부대가 집합하여 식전훈련을 하였다.)

ここで、「동트는」(東の空が白む)は内容をより形象的に表現する役割もあるが、それに劣らず、「새벽」(夜明け)に韻律を合わせる役割を果たす。つまり「새벽 나팔소리가 정적을 깨뜨렸다」(夜明けのラッパの音が静寂を破った)より「동트는 새벽 나팔소리가 정적을 깨뜨렸다」(東の空が白む夜明けのラッパの音が静寂を破った)とする方が、音律も合い、文章の平衡感もあって、文体論的にも表現効果をも高めることができる。

訳者あとがき

本論は、「中国語在朝鮮語的翻訳過程中從場面情報到文字情報的轉換—關於增加和省略」（中国・北京大学朝鮮文化研究所講師太平武氏が大阪経済法科大学で研修中の1992年2月19日アジア研究所主催の月例研究会で発表した論文）を筆者（呉満）が日本語に翻訳したものである。

日本語訳出については、当初、裴貞烈氏（本学アジア研究所嘱託研究員）が著者からの依頼を受け、訳出作業にあたったが、途中裴貞烈氏は個人的事情により帰韓した。その後、著者太平武氏も本学での研究期間を終え、1992年4月2日に帰国することになった。著者の帰国に先立ち、訳者である筆者が裴貞烈氏から引継ぎ著者の意図する論旨に支障がきたさぬよう細心の注意を払いながら日本語訳に努めたが、振り返ってみるとどこまで正確を期することができたか頻だ気掛かりである。

その1つは、漢字文化圏に属する日中両国において、中国文の漢字の表現をそのまま生かすかどうかの問題であった。すなわち、本論中に著者が説く“翻訳における場面情報の文字情報への転換”を直接体験する事になったわけである。朝鮮語と日本語は、語の構造と文法上において、他のどの個別言語よりも類似した特徴を有するがゆえに、中国語の朝鮮語への翻訳の問題は、中国語の日本語への翻訳の場合にも該当する課題だと言えよう。

他の1つは、上記のことと関連する問題であるが、本論のキーワードに相当する“文字情報”，“場面情報”，“原文総情報”，“訳文総情報”などの表現はそのまま採用することにした。それは、そのようにした方がむしろ原文の意図する著者の発想と論旨が理解されると考えたからである。

なお、本稿の翻訳作業中、難解な語句と表現に度重なる検討を繰り返しつつ、パソコン入出力作業に努めてくれた崔京氏（アジア研究所嘱託職員）に感謝を述べ、「あとがき」に代えたいと思う。

例文参考文献

- | | |
|-------------|-----|
| 1. 『家』 | 巴 金 |
| 2. 『阿Q正傳』 | 魯 迅 |
| 3. 『毛主席語録』 | 毛沢東 |
| 4. 『毛沢東選集』 | 毛沢東 |
| 5. 『魯迅小説選』 | 魯 迅 |
| 6. 『子夜』 | 茅 盾 |
| 7. 『東方欲暁』1部 | 陽 沫 |
| 8. 『第二次握手』 | 張 陽 |
| 9. 『沸騰的群山』 | |